

2023年3月期第1四半期 業績概要

窪田 顕文

アンリツ株式会社
取締役 専務執行役員 CFO

2022年7月28日



東証 プライム
証券コード：6754
<https://www.anritsu.com>

(ノート部記載なし)

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

目 次

1. 事業概要
2. 2023年3月期第1四半期 連結決算概要
3. 2023年3月期 通期業績予想（連結）
4. 当社の取り組みについて

（ノート部記載なし）

1. 事業概要

通信計測事業

ネットワーク社会の進化・発展



- ▶ モバイル市場：5G、5G活用
- ▶ ネットワーク・インフラ市場：データセンター、光NW、無線NW
- ▶ エレクトロニクス市場：基地局建設保守、電子部品、無線設備

PQA事業

食の安全・安心



- ▶ X線検査機
- ▶ 金属検出機
- ▶ 重量選別機

その他



- ▶ 環境計測
- ▶ センシング
& デバイス

(セグメント別売上比率)

2022年3月期 実績（連結）：1,054億円

通信計測 70%			PQA 21%	その他 9%
モバイル 57%	ネットワーク・インフラ 26%	エレクトロニクス 17%		

2023年3月期1Q 実績（連結）：262億円

通信計測 71%			PQA 19%	その他 10%
モバイル 57%	ネットワーク・インフラ 26%	エレクトロニクス 17%		

(通信計測事業 地域別売上比率)

2022年3月期 実績

日本 17%	アジア他 45%	米州 24%	EMEA 14%
--------	----------	--------	----------

2023年3月期1Q 実績

日本 11%	アジア他 47%	米州 26%	EMEA 16%
--------	----------	--------	----------

PQA : Products Quality Assurance

(ノート部記載なし)

2-1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

▶ 前年同期比受注は6%増、売上は10%の増収。営業利益は2%の減益、当期利益は39%の増益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	当第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	281	298	17	6%
売上高	238	262	24	10%
営業利益	31	30	△ 1	△2%
税引前利益	31	39	8	27%
当期利益	21	29	8	39%
当期包括利益	23	67	44	185%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

グループ全体の受注高は前年同期比6%増の298億円、売上高は前年同期比10%増の262億円となりました。営業利益は前年同期比2%減の30億円、当期利益は前年同期比39%増の29億円となりました。

2-2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

▶ 通信計測：ネットワークの高速化需要や5Gの開発需要が堅調に推移し、前年同期比増収増益

▶ PQA：販売促進費の増加に加えて、部品調達費用や物流費等の増加も影響し、前年同期比減益

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	当第1四半期 連結会計期間 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
通信計測	売上高	168	186	18	11%
	営業利益	29	34	5	19%
PQA	売上高	51	51	△0	△0%
	営業利益	4	△1	△5	-
その他	売上高	19	25	6	32%
	営業利益	0	△1	△1	-
調整額	営業利益	△2	△2	△0	-
合計	売上高	238	262	24	10%
	営業利益	31	30	△1	△2%

(注1) 値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

(注2) 調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

PQA：Products Quality Assurance

通信計測事業においては、5Gチップセット及び携帯端末の開発需要やデータセンター等でのネットワーク高速化に向けた開発・生産関連需要を獲得しました。費用面では、販促活動の強化により販売促進費が増加しました。この結果、売上高は前年同期比11%増の186億円、営業利益は19%増の34億円（営業利益率18.3%）となりました。

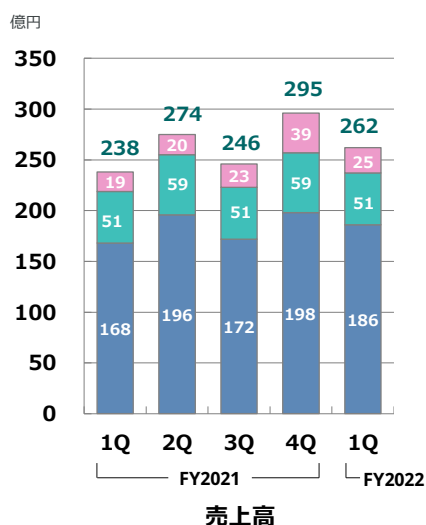
PQA事業は、食品市場の品質保証プロセスの自動化、省人化を目的とした設備投資は堅調であるものの、上海のロックダウンによる売上への影響がありました。費用面では、販促活動の強化により販売促進費が増加しました。加えて、部品調達費用や物流費等の増加も影響し、前年同期比で減益となりました。

この結果、売上高は前年同期並みの51億円、営業利益は前年同期比5億円減の△1億円となりました。

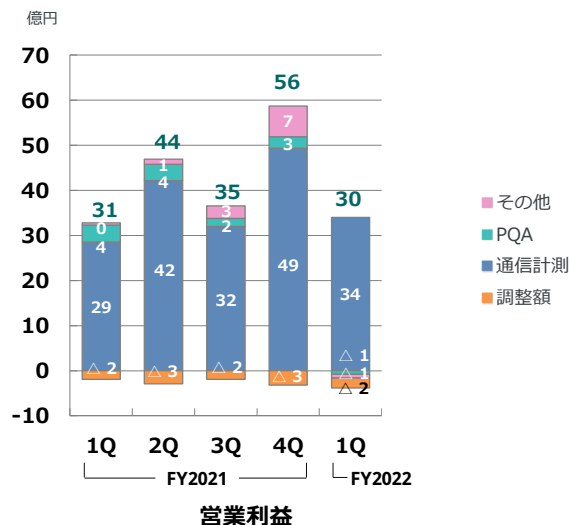
その他の事業では、2022年1月4日付で株式会社高砂製作所を連結子会社とし、前年度第4四半期より同社を連結対象としています。この結果、売上高は前年同期比32%増の25億円、営業利益は前年同期比1億円減の△1億円で増収減益となりました。

2-3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

▶ 1Q(4-6月)営業利益率：連結 12%, 通信計測 18%



(注) 値はそれぞれで四捨五入



第1四半期の連結及び各事業セグメントの営業利益、営業利益率は下記のとおりです。

連結	30億円（営業利益率：11.5%）
通信計測	34億円（営業利益率：18.3%）
PQA	△1億円

2-4. 事業別営業概況

セグメント 2023年3月期（4-6月）の状況

➡ 通信計測：5Gサービスは初期導入から、機能拡充のフェーズに移行。
データセンター高速化が好調

モバイル	5G開発需要は欧米市場の拡大に期待
ネットワーク インフラ	データセンター等への投資が好調
アジア他	5Gサービスへの投資は緩やかだが、堅調
アメリカ	データセンター高速化が好調。5Gへの投資が回復傾向

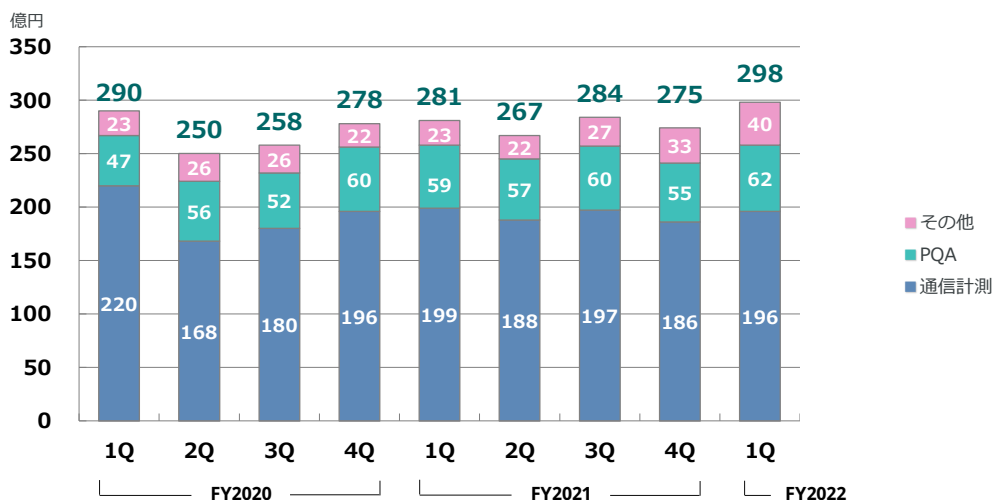
➡ PQA：食品市場の自動化、省人化を目的とした設備投資は堅調

(ノート部記載なし)

2-5. 受注高推移

▶ 通信計測：前年同期比 2%減、前第4四半期比 5%増

▶ PQA：前年同期比 5%増



(注) 値はそれぞれで四捨五入

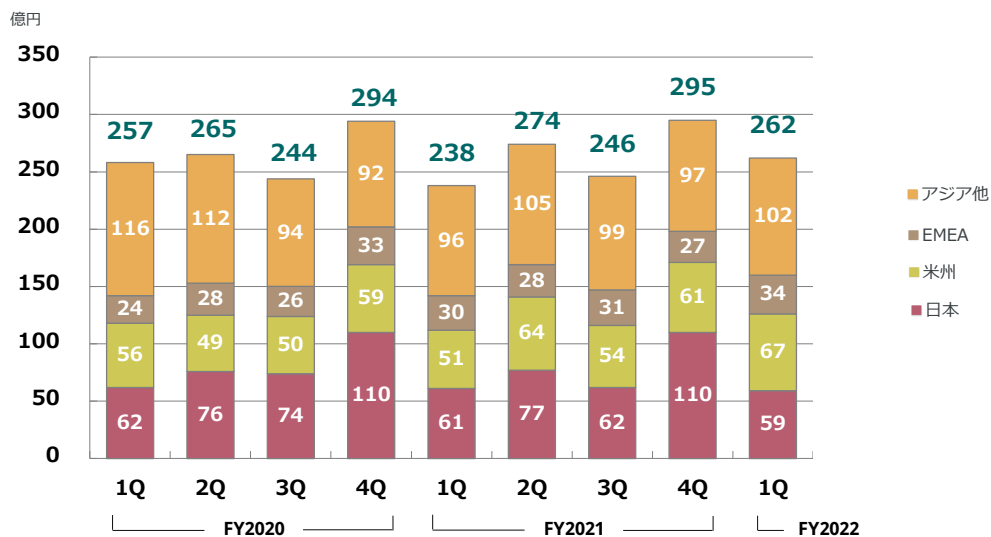
通信計測事業の第1四半期受注高は、前第4四半期の186億円から10億円増加し、196億円となりました。PQA事業の第1四半期受注高は、前年同期比5%増の62億円となりました。

その他の事業では、2022年1月4日付で株式会社高砂製作所を連結子会社とし、前第4四半期より同社を連結対象としています。

なお、受注残高はグループ全体で374億円（前年同期比37%増）、通信計測事業では237億円（同23%増）、PQA事業では80億円（同32%増）でした。

2-6. 地域別売上高推移

海外各地域で前年同期比増収



(ノート部記載なし)

2-7. キャッシュフロー

▶ 営業CFマージン率1.1%

FY2022 (4-6月)

- ①営業CF： 3億円
- ②投資CF： △16億円
- ③財務CF： △63億円

フリーキャッシュフロー

(①+②)：△13億円

現金同等物期末残高

399億円

有利子負債高

67億円

(注) 値はそれぞれで四捨五入

内訳

(単位：億円)

売上債権	14		
減価償却	14		
税引前利益	39		
棚卸資産	△18	設備投資 △10	配当金 △27
税金	△17	その他 △6	
仕入債務	△16		自己株式 △33
その他	△14		
			↑ その他 △3

営業CF 3

投資CF △16

財務CF △63

営業キャッシュフローは、3億円の資金獲得となりました。

投資キャッシュフローは、16億円の資金支出でした。

その結果、フリー・キャッシュフローは13億円の支出となりました。

財務キャッシュフローは、63億円の資金支出となりました。主なものは、配当金の支払い27億円（期末配当分 1株20円）と自己株式の取得33億円です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より58億円減少の399億円となりました。

3. 2023年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 4月28日公表値から変更なし

（単位：億円）

		2022/3期	2023/3期		
		前期実績	通期予想	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
売上高		1,054	1,150	96	9%
営業利益		165	190	25	15%
税引前利益		172	190	18	11%
当期利益		128	140	12	9%
通信計測	売上高	733	780	47	6%
	営業利益	152	175	23	15%
PQA	売上高	220	240	20	9%
	営業利益	12	13	1	11%
その他	売上高	101	130	29	29%
	営業利益	11	12	1	7%
調整額		△ 10	△ 10	0	-

（参考） FY21 為替レート
FY22想定為替レート

: 1米ドル112円、1ユーロ=131円
: 1米ドル120円、1ユーロ=135円

（注） 2022年1月4日に統合完了した高砂製作所の業績は、その他事業に含まれています。

（注） 値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

2023年3月期の通期業績の見通しは4月28日の公表値から変更はありません。

新型コロナウイルスによる経済活動への影響は地域ごとにばらつきがあり、当社事業への影響も地域によって異なります。当見通しは、各地域において感染状況が1年間継続することを前提に策定しております。今後、前提となる状況に変化が生じ、開示すべき重大な影響が見込まれる場合には速やかに公表します。

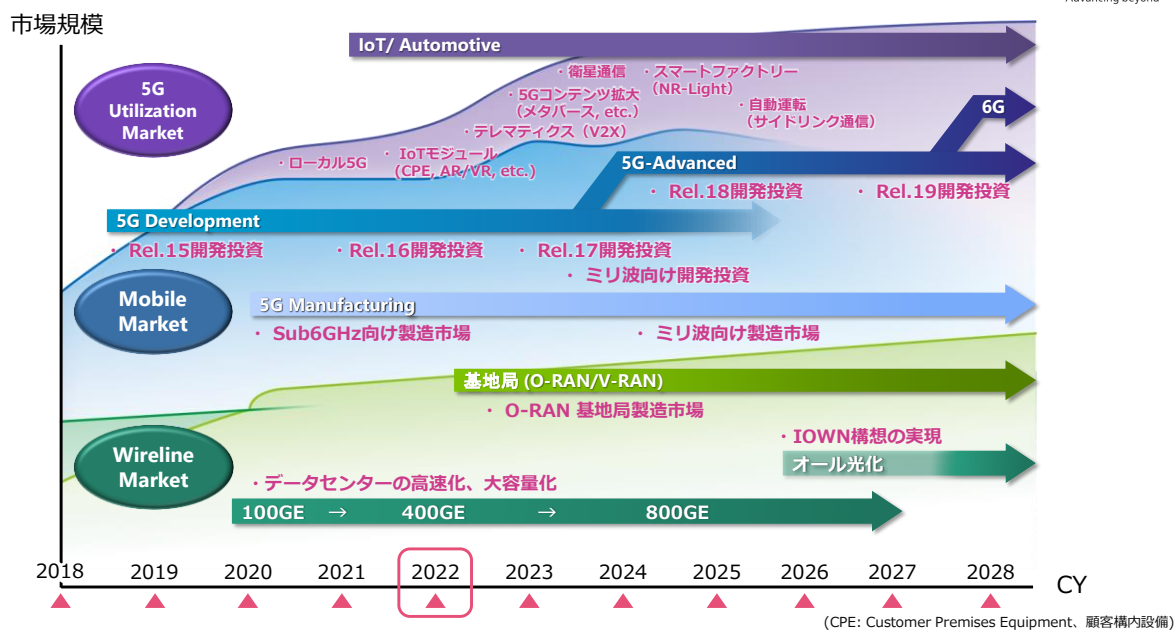
4.当社の取り組みについて

濱田 宏一

アンリツ株式会社
代表取締役 社長

(ノート部記載なし)

4-1. 通信計測市場トレンドと事業機会



2020年-2021年は世界的なパンデミックやミリ波のエリア展開遅れなどで普及が緩やかであった5Gサービスではありますが、2022年以降の欧米での5Gサービスの拡大や、ローカル5G・プライベート5Gといった個別ネットワークの活用拡大、メタバースなどに代表される5G活用のコンテンツ創出により、5Gの活用領域は今後も拡大が見込まれます。

欧米での5Gサービスの拡大により、2023年-24年くらいまではスマートフォン需要が5Gの計測器需要を牽引し、その後は5Gの利活用領域の需要に計測器需要のドライバが移って行くものと考えています。ミリ波については、主に5G FWA（Fixed Wireless Access、固定無線アクセス）での利用等、5Gの利活用領域での展開が期待できます。

5Gシステムとしても、3GPPリリース15ではスマートフォンが主要領域であったものが、リリース16/17の標準化によりIoT/Automotive/ローカル5Gなどの5G利活用領域に広がり、さらに6Gの一部の機能・性能を取り込む5G-Advancedを経て、2028年頃の6Gシステムに段階的に移行することを目指しています。

さらに、モバイルの進化に合わせて、基地局のO-RAN化や光ネットワークの400GEから800GEへの高速化、オール光化など、ネットワークの高度化に向けた動きがネットワーク向けの計測器需要を牽引すると捉えています。

4-2. 部材調達状況

半導体調達状況：依然として調達困難な状況

半導体の平均LTは400日前後

対策：

- 部品手配を、従来は4か月先が中心だったが、**8か月先までの仕込み**に延長
- 長納期部品（8カ月超のもの）をリストアップし、**先行手配（1年以上前に発注）**
- 20機種以上の製品に対し設計変更を実施。**300品目以上を入手性の良い代替品に置換え済み**
- 重要性の高い戦略部品は**安全在庫を増加**

生産状況：

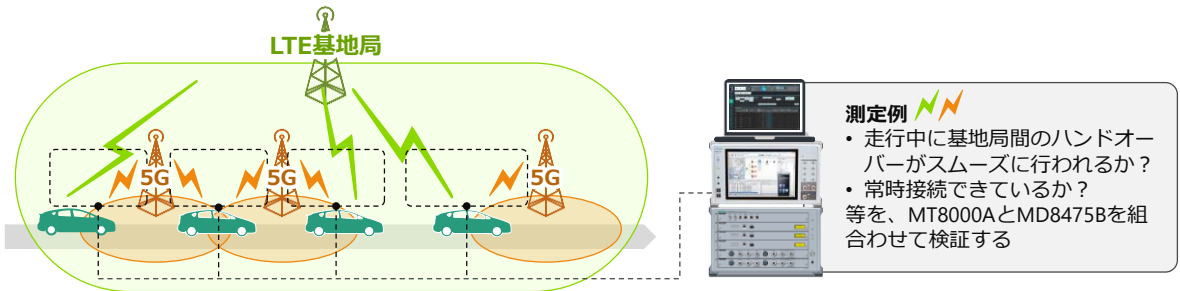
2Qの生産に対する部材はほぼ調達済み

(ノート部記載なし)

4-3. 製品紹介 : Automotive向けソリューション

5G搭載車リリースに向けた5Gテレマティクス機能の開発

MX728000A SmartStudio Automotive Suite



■ 特徴

Automotive特有のニーズである高速移動&常時接続を検証するためのテストケースを提供

■ 対象市場

- ・自動車（コネクテッドカー、自動運転）

■ 対象顧客

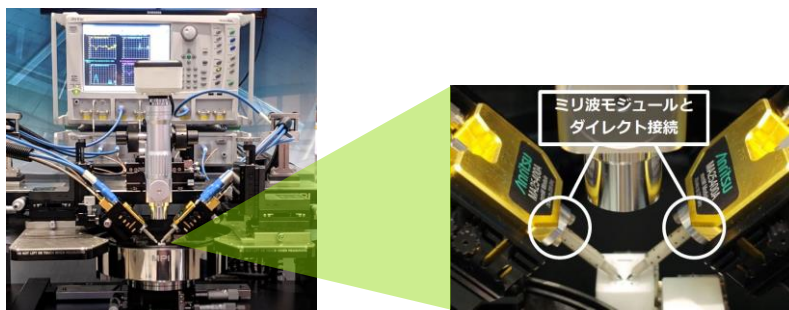
- ・自動車メーカー、農機・建機メーカー、車載通信機メーカー：Tier1、など

(ノート部記載なし)

4-4. 製品紹介：6G開発用途向けソリューション

Beyond 5G/6G 材料、基板、デバイス、アンテナの性能評価

ME7838シリーズ ベクトルネットワークアナライザ



■ 特徴

ミリ波拡張モジュール追加により、6Gに求められる330GHz帯の高周波試験に対応

■ 対象顧客

高周波デバイスの研究機関および大学、デバイスメーカー、素材メーカー、通信機器メーカー

(ノート部記載なし)

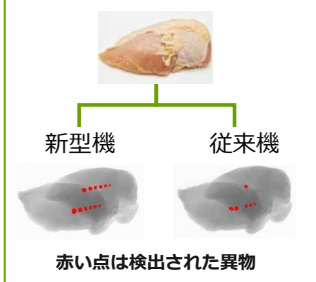
4-5. 製品紹介：食肉市場向けソリューション

高感度の異物検出、厚みがあり凹凸の多い食肉や冷凍食品などに対応

KXH7534ASGCD デュアルエネルギーセンサ搭載X線検査機



テスト事例（鶏むね肉2枚重ね）



■ 特徴

新開発のセンサで微細な残骨等を高感度に検出可能

■ 対象顧客

食肉加工メーカー、冷凍食品市場メーカー

(ノート部記載なし)



(ノート部記載なし)